

# 丹羽保次郎の代表的発明(写真電送方式)

丹羽保次郎と小林正次は、現在のFAXの基礎となる独自方式の写真電送装置を発明しました。当時の写真電送装置は、送信機と受信機は別々の構成であり、専用の通信回線を使用していました。

昭和3年11月に執り行われた昭和天皇即位式の写真を、いかに早く新聞に掲載し全国の読者に報道するかが当時の最大の関心事であることから、新聞各社は競って海外の写真電送装置を購入しましたが、事前の実験ではうまくいきませんでした。そこで、開発間もない丹羽・小林の写真電送装置を採用したところ大成功を収め、日本初の実用化がなされました。

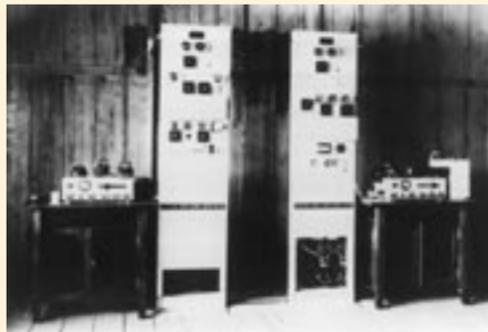
当時、欧米からの技術導入が中心の先端分野の電気技術に対し、写真電送の分野は純国産技術によって確立され、その後の日本のFAX技術の発展に大きく貢献しました。



写真電送装置(送信機)



写真電送装置(送信機(台))



御大典報道に使用された写真電送装置(右:送信装置、左:受信装置)